

リベリア
ニンバ山脈地帯森林保全プロジェクト
現地からのお便り

2018年5月
コンサベーション・インターナショナル

「もうかる農業」に向けたトレーニング

Yolowee と Gbobayee の二つの村からそれぞれ 10 人、合計 20 人の住民を対象に、「もうかる農業 (Farming as a Business) 」のための 3 日間トレーニングを行いました。村や、村にある様々なグループのリーダー及びメンバーが農業ビジネスに必要なスキルとツールを身に付け、生計向上のための取り組みを効果的に管理・継続できるようにすることを目的としたトレーニングです。

私たち CI の他、近隣で操業している企業 (Arcelor Mittal) や農業開発に強い地元 NGO (Skills and Agricultural Development Services) もトレーナーとして参加し、理論と実践の両面から、集団ダイナミクス、企業、記録管理、事業計画を学びました。



グループディスカッションをする参加者



理論編の講義を聞く参加者

家畜飼育と野菜生産

家畜飼育はコミュニティの生計向上のための取り組みの一つです。前期、Yolowee で 9 匹の子豚が生まれ、今期は Gbobayee で出産を期待していましたが、残念ながら死産でした。現在、Yolowee で 15 匹、Gbobayee で 6 匹の豚が飼育されています。両村で豚小屋の拡張工事が進み、Yolowee の豚小屋は、あと屋根を付ければ完成、Gbobayee では無事に 4 部屋の拡張工事が完了しました。



Yolowee 村の子豚



Gbobayee 村の拡張工事をした豚小屋

プロジェクトでは野菜生産も行っています。それぞれの村で約 0.8 ヘクタール（2 エーカー）の土地の選定・調査・整備が完了し、一部でキャッサバやパパイヤの植付けを始めました。



野菜生産のための土地

タブレットを使ったデータ収集のトレーニング

保全契約の下、村のフロントライン保護官は東ニンバ保護区とその周辺を定期的にモニタリングする責任があります。フロントライン保護官と政府レンジャーが効果的に各種データ（生物、社会経済、野生生物とその生息地への脅威等）を収集できるよう、survey 123 というシステムを使ったモバイルデータ収集方法についてのトレーニングを行いました。フロントライン保護官とレンジャーはタブレット端末を使ったモニタリングを実施し始めました。



タブレット端末を使ったデータ収集について説明する CI スタッフ

フロントライン保護官

合計で 36 回のパトロールを東ニンバ保護区の周辺で行いました。二つの空薬莢が別々の場所で見つかりました。

規約作り

二つの村のリーダーが保全に関する規約の案を作成しました。現在、村人たちがその案を確認しており、来期に署名される予定です。規約があることで、村のリーダーが村人たちに行動に責任を持たせることが可能になります。

(全ての写真は、© Conservation International/Photo by Alison Miah)

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。